



令和8年9月

地域支援センターだより

地域支援センターやわた

第1回「スキルアップ研修会」を実施しました



7月30日、榎原久直先生（京都教育大学 総合教育臨床センター 学びサポート室）を講師にお迎えし、「困り感の背景を読み解くー事例で学ぶ、発達特性のある子どもへの理解と具体的支援ー」をテーマに研修会を開催しました。当日は、園・小学校・中学校・高等学校など22施設から31名の皆様に御参加いただきました。講義では、子どもの行動を表面的な「問題行動」として捉えるのではなく、その背景にある困り感や思いに目を向けることの重要性について学びました。子どもが安心感や安全感を得られることで、学習や人との関わり、新しいことへの挑戦につながるという「安心感の輪」の考え方が紹介され、支援者には子どもが安心して戻ることのできる「安心の基地」と、困ったときに支えとなる「安全な避難所」としての役割が求められることを確認しました。また研修会の後半は学校や支援現場でよく見られる事例をもとにグループワークを行い、子どもの行動の背景や困り感、支援の方向性について意見交流を行いました。学校種や所属を超えた協議を通して、多様な視点からの見立てや具体的な支援方法について学び合うことができました。

御参加いただいた方からの感想（一部抜粋）

- 愛着障害という言葉で片付けず、安心の輪のどの位置にいるのかを考えてサポートすることの大切さがよくわかりました。【幼稚園・保育園・こども園】
- 子どもの発達特性やアタッチメント（愛着）について理解を深めるとともに根拠に基づいて支援方法を考え、学校と家庭が連携しながら支援を進めることの大切さを学びました。講義では、子どもの言動の背景にある困り感や思いに目を向け、その願いや気持ちを理解することの重要性について学びました。特に、「共感する対象は感情であって行動ではない」という言葉が印象に残り、行動を適切に修正しながらも気持ちに寄り添う支援の大切さを感じました。また、ADHDのある子どもの世界を疑似体験することで、本人の困難さへの理解が深まりました。子どもの特性を正しく理解し、自尊感情を大切にしながら支援していくために、校内でも理解啓発を進めていきたいと思います。【小学校】
- 日々の声かけについて反省すること、後悔することが山程でした。自分では寄り添えたつもりでかけた声掛けが、逆に追い詰めてることがあったかもしれないと思います。意図したものではないけれど、つらい思いをさせていたのかもしれないと反省しきりでした。正しい支援について、しっかり学び支えていきたいと思いました。【小学校】
- アタッチメント（愛着）や神経発達症との関連について理解を深めることができました。特に、「愛着障害」という言葉を安易に用いるのではなく、その背景や意味を正しく理解した上で使うことの重要性を学びました。【中学校】
- 生徒への支援を進める上で、適切な見立てを行うためには、根拠となる情報を多面的に収集することの大切さを改めて実感しました。また、事例研究では参加者それぞれの立場や経験に基づく多様な意見を聞くことができ、自分自身の支援の視野を広げる貴重な機会となりました。【高等学校】